

建中寺本堂について

○ 古式を示す尾張徳川家菩提寺の壮麗な大型本堂

けんちゅうじほんどう
建中寺本堂 1棟

所在地：名古屋市

所有者：宗教法人建中寺

指定基準：意匠的に優秀なもの

【概要】

旧名古屋城下の東端に境内を構える浄土宗寺院で、徳興山と号する尾張徳川家の菩提寺。藩祖義直の菩提を弔うため、慶安4年(1651)に2代光友が開創した。本堂は、天明5年(1785)に地域一帯を焼いた大火後の再建で、尾張藩の作事により天明6年(1786)8月に上棟、同7年(1787)5月に供養が行われた。前身の本堂に倣った平面は浄土宗寺院本堂に典型的な形式で、内陣^{ないじん}と位牌^{いはい}の間まわりを明確に画す凸形平面の結界^{けっかい}、面取角柱の多用などに古式を示している。装飾など一部は増上寺寛永度本堂を参考とし、銅板巻の妻飾は当時の尾張藩作事方に特徴的な仕様である。本山寺院と比肩する破格の規模を持ち、尾張徳川家菩提寺に相応しく、内陣まわりを巧みな彫刻欄間や極彩色で荘厳した壮麗な大型本堂である。

内陣¹: 仏堂や社殿において、本尊や神体を祀る神聖な場所

結界²: 内陣^{げじん}と外陣を区別するために設けられる仕切り



建中寺本堂（名古屋市教育委員会提供）